

# 札幌で広がるロングパス・「さっぽろ周回ウォークウェイ」



小川 浩一郎 (おがわ こういちろう)  
 (株)ジオ (THE-O) 代表取締役

1980年札幌市生まれ。2001年エコ・ネットワーク代表代行、13年北海道科学大学客員准教授、15年(株)ジオ代表取締役。札幌市南区常盤で育つ。『フットパス』をキーワードに市内、道内、国内で普及活動、ウォークイベントを実施し、ワールドウォーカーとして世界の「フットパス」を歩いている。「歩く」ことを通じて自然あふれる都市・札幌を観光客へ伝えるべく奮闘中。著書に「北海道フットパスガイド①」「北海道フットパスガイド②」

## フットパスウォーカーの急増

私たちが北海道でフットパスの普及活動を始めて20年ほど経ちました。今では北海道は「フットパス王国」として業界では一目を置かれています。そこに至るまでにはいくつかの活動が実を結んできたと考えています。今でこそフットパスは「歩く道」という認識が道内ではある程度広まってきましたが、20年前は全く知られておらず「フットサル」などによく間違えられたものです。札幌市では私たちが1990年前半から「歩くことを楽しめる」フットパス愛好者（ウォーカー、作り手を含む）を増やすために「フットパスイベントの実施」「フットパスフォーラム等の開催」「フットパス作りの協力・推進」「本場イギリスのフットパス視察」の4本柱に取り組んできました。これにより市内ではフットパスウォーカーが急増した上、私たちも歩くことの楽しさを伝えるノウハウを培ってきました。

## 壮大なロングパスのさっぽろ周回ウォークウェイ

現在、札幌市内では大きく3カ所でフットパス活動が行われています。北区（一部東区も含む）の「太平百合が原フットパス」、手稲区の「テイネフットパス」、南区駒岡地区の「駒岡の自然フットパス」がそれぞれです。それぞれの団体に私たちも時折加わり、イベントやフットパス普及、地域活性化、さらに研究など関わっています。

これ以外にもいくつものフットパスとなりうるルートがあって、それらを私たちがつなぎ合わせたフットパスを「さっぽろ周回ウォークウェイ」と呼んでいます。さっぽろ周回ウォークウェイは札幌市内約150kmをつないだ壮大なロングパス（長距離フットパス）です。前述した3カ所のフットパスにはマップが整備さ



市内中心部でもフットパスルートになりうる



れていて、太平百合が原フットパスではコースサインも一部貼付されていますが、さっぽろ周回ウォークウェイは、今のところ拙著（北海道フットパスガイド①、②）でルート紹介している他はマップやコースサインはありません。現時点では主にフットパスイベントなどで利用していますが、大きな人気を集めています。

約150kmにもなりますが国道や道道、住宅密集地などは極力避けるようにルート設定していて、都市部の中でも魅力的なルート設定を心がけています。190万人都市の札幌中心部であっても公園の園路、河川敷などをうまく利用すれば心地よいフットパスに生まれ変わるのです。観光地化されていない札幌の片隅や商店街、自然エリアにもたくさんの魅力があふれています。本当の札幌を知れる可能性を秘めているのです。

### 地方では真似できないメリット

地方では大規模に広がる田園地帯や自然や圧倒的な景観などが魅力となりうる場合が多いですが、札幌市では同じようなルートは設定できません。その代り地方では真似できない利点がさっぽろ周回ウォークウェイにはあるのです。

まずはルートまでのアクセスの良さが挙げられるでしょう。地下鉄、JR、バスなど公共交通機関が起終点となるルートがほとんどです。それ故、車を持たないウォーカーでも容易にアクセスできます。何か緊急を要する事態が起きたとしても、タクシーを呼べばそれほど時間もかからず家路に就ける点もプラスの要素になります。

そして圧倒的な数の飲食店も魅力に加えられます。地方のフットパスでは立ち寄れる飲食店の数は限られるため、手製のお弁当になる場合もあります（逆にそ

れがプラス要素でもありますが…。人は誰しもおなかが減りますが、気ままに時間をかけずに「食」を楽しめます。

さらにトイレの問題です。長年、フットパスイベントを実施していますが、トイレの恨みは深いのです。しかし札幌市内のフットパスの場合は飲食店、コンビニ、公園などトイレに困ることはまずないでしょう。

地方に広がる広大なエリアを歩くフットパスももちろん素晴らしいですが、「誰でも、気軽に、何時でも、時間を気にせず」楽しめる要素をさっぽろ周回ウォークウェイは持っています。

### 宝石たちをつなぎ合わせたネックレス

昨年度、札幌市には880万人強の旅行者が訪れました。さっぽろ周回ウォークウェイの一部にも組み込んでいる駅から歩いて10分ほどで、サケの遡上を見られる河川沿いのフットパス、北海道らしい防風林の中を黄葉したシラカバに囲まれながら歩けるフットパス、札幌軟石の家屋やそれを芸術的に使用した緑地など、札幌の文化を体感できる地区のフットパスを歩いた人はおそらく僅かでしょう。これらのポイントは起点の駅等から20分もあればたどり着けます。ポイントを点で訪れるのも悪くはありませんが、そこへ至る過程を楽しみ、ストーリーに思いをはせるのも同じく悪くはありません。この魅力あふれる「宝石（ポイント）」を訪れた旅行者にも触れてもらわない手はないのでしょうか。宝石たちをつなぎ合わせたネックレス（さっぽろ周回ウォークウェイ）は、秘められた札幌の魅力を引き出せるとても価値があるものなのではないかと考えます。



サケの仲間も遡上する市街地の河川沿い（豊平区）



自然に囲まれたフットパスコース（南区真駒内）